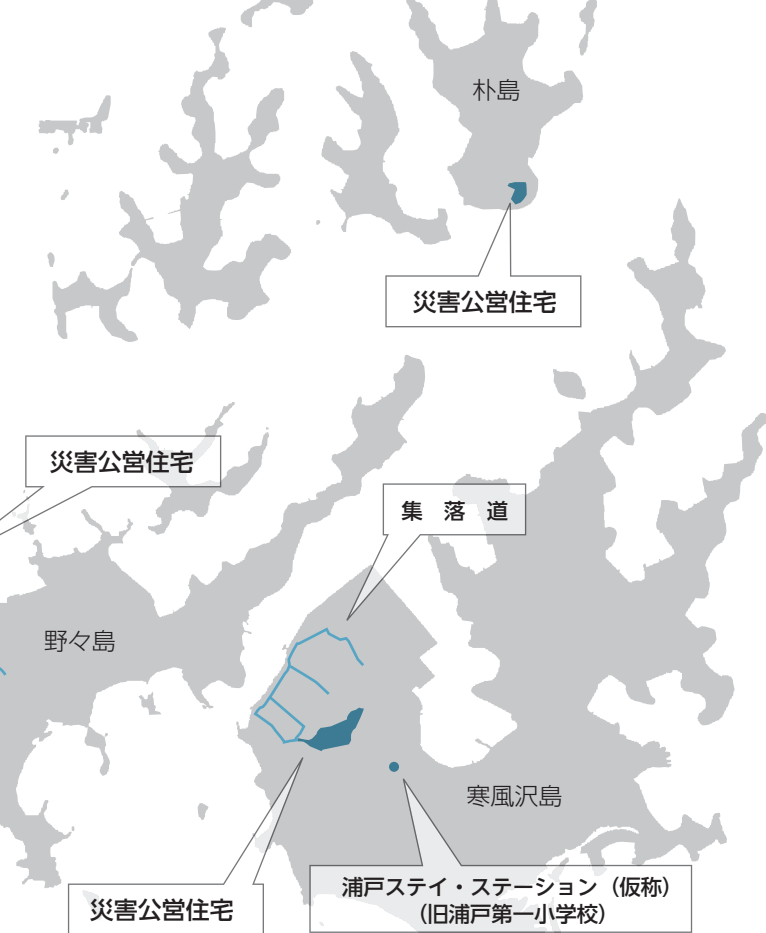


# 浦戸地区の生活再建と復興に向けて

東日本大震災による津波被害が最も著しかった浦戸地区では、生活基盤・産業基盤の全般において復旧・整備が急務となっています。「離島」という特殊性や、特別名勝松島内に位置することから、実施にあたり各種の手続きを必要としましたが、ようやく各事業で工事が始まり、復興に向けた歩みが進んでいます。



## 担い手づくり

◇浦戸地区集落再生促進施設整備事業 (桂島、寒風沢地区)  
 漁業の担い手育成と地域住民の交流施設を整備します

震災で甚大な被害を受け、人口減少が著しい浦戸地区の集落再生と、これからの島づくりの担い手確保を目指し、寒風沢と桂島の旧浦戸第一、第二小学校を改修して「浦戸ステイ・ステーション (仮称)」を整備します。



▲現在の旧浦戸第二小学校 (桂島)

校舎の1階には住民交流のための多目的室や炊き出し拠点 (厨房)、浴室などを、2階には就漁希望者などの宿泊施設6室を設け、Jターンなどによる新たな就漁希望者が宿泊できる施設や、地域住民の交流施設、災害時の防災避難施設として活用します。

現在、実施設計を行っており、年度内の完成を目指しています。

問 政策課企画係 ☎364-1111 (内線295)

## 生活環境の安全・安心

◇漁業集落防災機能強化事業  
 (桂島、石浜、野々島、寒風沢地区)

集落道と避難路整備により安全・安心な生活基盤を整えます

災害公営住宅へのアクセス道となる集落道15路線や、津波発生時に住民や観光客が速やかに高台へ避難するための避難路9路線を整備します。



▲整備が急がれる集落道 (寒風沢)

すでに、地質調査や測量、設計、津波シミュレーションなどを終え、集落道2路線、避難路2路線の工事に着手しています。住民の方々との意見交換や県事業との調整を行いながら、年度内に集落道14路線、避難路9路線の完了を目指しています。

## なりわいの復興

◇漁港施設機能強化事業 (野々島、寒風沢地区)

◇漁港施設災害復旧事業 (野々島、寒風沢地区) \*

\*桂島は県事業

漁港のかさ上げと復旧工事が進んでいます

浦戸地区の基幹産業である浅海漁業の復興を目指し、拠点となる漁港施設 (防波堤、物揚場、船揚場、浮桟橋) の復旧工事と、漁港のかさ上げ工事を行っています。



▲工事が進む漁港施設 (野々島)

地盤沈下が著しい浦戸地区では、満潮時に漁港施設が冠水する状況が続いており、一日も早い完成を目指して工事を進めています。

問 復興推進課産業基盤復興係 ☎364-1111 (内線340)

**【桂島地区】**  
 長屋12戸  
 戸建2戸

・ 旧浦戸第二小学校

**【野々島地区】**  
 集合15戸

・ ブルーセンター

**【寒風沢地区】**  
 長屋5戸  
 戸建6戸

松林寺

**【朴島地区】**  
 長屋4戸  
 戸建1戸

・ 市営汽船待合所

住まいの再建

災害公営住宅整備事業（桂島、野々島、寒風沢、朴島地区）  
 いよいよ建築工事に着手しました

6月28日、浦戸地区4島の  
 災害公営住宅建築工事着手  
 にあたり、野々島地区の建  
 設予定地で着工式を行いま  
 した。

事前の入居希望調査によ  
 り、長屋、戸建、集合住宅  
 タイプの住宅を4島合わせて45戸整備し、年度内の入  
 居開始を目指して作業を進めています。

☎ 復興推進課住宅基盤復興係 ☎364-1111(内線342)

防災集団移転促進事業（桂島、寒風沢地区）  
 移転促進区域から高台へ集団移転します

浸水被害が大きかった桂島、寒風沢地区では、移転  
 促進区域内の住宅70戸（桂島35戸、寒風沢35戸）の  
 うち、25戸（桂島13戸、寒風沢12戸）が新たに造成  
 する高台の住宅団地に移転します。

☎ 復興推進課都市基盤復興係 ☎364-1111(内線347)



これからの浦戸づくりへ  
 できることからやっていきたい

桂島区 内 さん

震災の1週間ほど前に区長になり、  
 多くの住民が住居を失うなど困難な状  
 況に直面し、途方に暮れました。身一  
 つで避難し、すべてを失った方々の気  
 持ちの回復には時間を必要としまし  
 ましたが、今は災害公営住宅の完成を待ち望  
 み、工事着手を心から喜び、励みにしています。

浦戸地区の一番の課題は、人口流出と高齢化です。難し  
 い課題ですが、外部から来てくださる支援の方々のお力も  
 借りして、交流人口の拡大など、できることからやって  
 いきたいと思っています。

今年は、震災以降初めて海水浴場が開設され、少しずつ  
 活気づいています。多くの方が島を訪れ、のんびりした自  
 然豊かな浦戸の良さを感じていただくことが、これからの  
 浦戸づくりにつながっていくと思っています。